

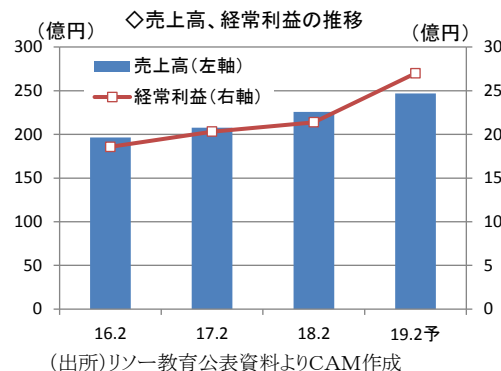
企業ニュース リソー教育

(東証1部：4714) <http://www.tomas.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

進学個別指導塾の先駆者

1985年、理想教育研究所という教室名でスタート。1クラス6名、学力別クラス編成、100%正社員講師を基本に、生徒の個性や個人差に的確に対応した教室運営を行う。1989年、名門会家庭教師センターを開設し家庭教師部門に進出。1990年、当社独自の完全個室の1対1の個人教授システムを開発、1997年より同教室の愛称をTOMAS（トーマス）とした。現在では、完全個別指導を中心とした進学学習指導を行う「TOMAS」、医学部受験専門個別指導「メディックTOMAS」の運営を行うリソー教育を中核に、子会社で学校内個別指導、家庭教師派遣教育、英語スクール、人格情操合宿教育、幼児教育、生徒募集勧誘などの事業を展開している。



新規事業も順調な展開、高い株主還元も評価できよう

19.2期・第3四半期累計（3-11月）の連結業績は売上高が177億4,700万円、前期比9%増、営業利益が15億4,000万円、同34%増。主力のTOMASでは前々期より成長戦略として首都圏サテライト校拡充を実施しており、今期に8校を新規開設した。家庭教師派遣教育を展開する名門会も、TOMASが展開していない地域（1都3県以外）で個別指導塾「TOMEIKAI」を2校開設するなど成長をけん引した。新規事業では学校内個別指導のスクールTOMASでフィリピン・セブ島を拠点とし、オンライン英会話システムを展開した。人格情操合宿を行うプラスワン教育もスクール事業や海外留学事業が順調。幼児教育の伸芽会も新規事業の長時間英才託児事業や学童事業が、女性の社会進出へ向けた施策の影響もあり好調に推移した。

19.2期の通期会社計画は売上高が247億円、前期比9%増、営業利益が27億1,000万円、同26%増。第3四半期までの業績は順調である。幼児教育を中心に高い成長率が評価できよう。投資先行の学校内個別指導のスクールTOMASも採用学校の増加で収支改善が見込めよう。

[株価動向・投資判断]

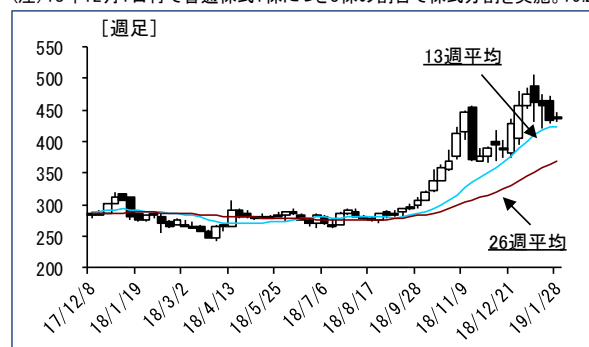
17.2期以降配当性向100%を目安としその水準を維持している。今期の1株当たり配当金は株式分割前ベースでは年33円（第3四半期まで22.5円＋第4四半期10.5円）で増益増配を維持している。

<4714 リソー教育 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.2	20,777 (6)	2,051 (9)	2,032 (9)	1,275 (▲11)	25.1	25.00
18.2	22,584 (9)	2,158 (5)	2,139 (5)	1,381 (8)	28.1	28.00
19.2 予	24,700 (9)	2,710 (26)	2,700 (26)	1,600 (16)	10.8	26.00

(注) 18年12月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施。19.2予の1株配当金は第3四半期までの22.5円と第4四半期の3.5円を単純合算して表示



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2019/1/28)	439 円
昨年来高値 (高値日)	505 円 (19/1/7)
同 安値 (安値日)	241.7 円 (18/3/26)
予想 P E R (19.2 予)	40.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	41.2 円
P B R	10.66 倍
予想配当利回り	2.51 %
(株式分割調整後の1株当たり配当金年11.00円)	
R O E (18.2)	22.0 %
発行済み株式数	15,621 万株